

1 単元名「資料を生かして呼びかけよう」(東京書籍 新編新しい国語六)

2 単元の目標

【関心・意欲・態度】

- ・複数の資料の中から効果的な資料を活用して、呼び掛けの文章を書くことに意欲的に取り組もうとする。

【書くこと】

- ・自分の考えを明確に表すために、資料を活用した効果的な文章の構成を考えることができる。
- ・資料から分かる事実と自分の考えとを区別し、目的や意図に応じて簡潔に書いたり詳しく書いたりすることができる。
- ・引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くことができる。

【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

- ・文章の中での語句と語句との関係を理解することができる。

3 単元観

本単元は、小学校学習指導要領解説国語編第5学年及び第6学年「B書くこと」の「(2)内容(1)」の「イ 自分の考えを明確に表現するため、文章全体の構成の効果を考えること」及び「エ 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書くこと」を受けて設定した。

本単元で扱う題材は地球温暖化を中心とした環境問題である。環境問題に対する身近な取組を呼び掛ける文章を書く活動を通して、文章全体の構成の効果を考え、目的や意図に応じて必要な資料を選択し、その資料を活用して説得力を持った文章を書く力を身に付けることを目標とした。

環境問題については興味や関心を持っている児童と、そうではない児童がいる。題材に興味や関心を持っている児童は、本単元の学習に意欲を持って取り組むことができると思われるが、そうではない児童が学習意欲を低下させてしまう可能性がある。そこで、本単元では、環境問題に関連する図書の並行読書を行い、それぞれの児童が、自分の興味・関心に沿った題材で、相手意識を持って書くことができるようにしていく。

単元の前半は教科書教材で、資料が持つ効果や段落構成について学ぶ段階とした。

教科書教材では、地球温暖化の原因を挙げながら、温室効果ガスを減らす方法を考え、自分ができる取組を述べている。また、教科書の例文は、「序論」「本論」「結論」の段落構成で書かれており「本論」の段落で、写真や図、グラフなどの資料を効果的に用いて論を展開している。

単元の後半は資料が持つ効果や段落構成について学んだことを生かし、教科書の例文につなげて環境問題に関わる具体的な取組について呼び掛けの文章を書くという授業構成にした。学校図書館より、関連図書51冊を準備し、環境問題に関わる課題や、自分の考えを伝えるための資料を主体的に見付けることができるようにしていく。自分の関心に基づく関連図書の並行読書により、書く意欲も高まると考える。

本単元を通して、資料を活用して自分の考えがより相手に伝わるように、図やグラフ等を効果的に用い、説得力のある文章を書き上げることを目指して指導していく。

4 児童の実態 [第6学年1組 男16名 女9名 計25名]

(1) 観察から

第6学年1組は、男子16名、女子9名が在籍している。個別の支援を要する児童が多数在籍しており、学校支援員2名を配置して指導を行っている。

現在では4月当初と比べて、学級全体として落ち着いて学習に取り組むことができるようになってきた。しかし、依然として学習意欲、理解ともに個人差が大きい状況に変わりはなく、一人一人に寄り添った学習支援が必要である。

児童は5年生で、「資料を生かして考えたことを書こう」の単元において、資料から情報を読み取り、読み取った情報を生かして文章を書く学習をしてきている。このときは、自分の興味・関心のある環境問題や災害についてのポスターを作成し、資料の読み取り方や活用の仕方を学習した。

また、7月に行った第I期の授業実践「友達が納得できるような意見文を書こう」では、筋道立った段落構成の理解や、自分の考えをはっきりとさせるために、思考に関わる語句を活用することを学習してきている。その中で、意見文は主に「序論」「本論」「結論」で構成されていることや「頭括型」「尾括型」「双括型」の3つがあること、自分の考えを根拠付ける理由の中で、自分の考えだけではなく、具体的な数値や体験したことなどの事実を入れることで、説得力が増すことを学んだ。

本単元では、児童が自分の意見に説得力を持たせ、読み手の理解を促すために、資料から必要な情報を読み取り、読み取った情報と自分の考えを区別しながら書くことを目指す。

(2) 教研式NRTテスト（平成30年4月17日実施）の結果から

ア 観点別集計

内容	正答率・学級	正答率・全国	全国比
1 話す・聞く能力	67.1	71.9	93.3
2 書く能力	53.4	65.3	81.7
3 読む能力	48.1	52.7	91.2
4 言語についての知識・理解・技能	54.1	55.3	97.8

イ 小問分析

領域	小問内容	通過率 (%)	
		学級	全国
書くこと	図と関連して書く	74	82
	グラフを用いて書く	74	81
	意見文の材料の選択	67	83
読むこと	図と関連付けて読む	70	54
	図書館での資料の検索	67	86
	要旨をとらえる	22	22

本単元と関連する「書くこと」の「図と関連して書く」「グラフを用いて書く」は全国と比べて7～8ポイント下回っている。一方、「読むこと」の「図と関連付けて読む」では、16ポイント上回った。このことから、資料を読み取ることはできるが、必要な資料を選んだり、それを用いて書いたりする力が十分に身に付いていないことが分かる。

第I期で身に付けてきた文章構成の理解を生かして、筋道立った文章構成で呼び掛けの文章を書かせるとともに、資料の読み取りと活用の仕方を丁寧に指導し、相手に自分の考えをより説得力を持って伝えることができるようにしていきたい。

5 指導観

本単元では、小学校学習指導要領解説国語編「書くこと」の言語活動例「イ 自分の課題について

調べ意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること」を具体化し「環境問題に関わる本を読み、資料を生かして友達に呼び掛ける文章を書こう」という言語活動を設定した。指導に当たっては単元を三次（導入，展開，発展）に分け、それぞれ以下のような手立てを講じていく。

第一次では、環境問題について呼び掛ける文章を意欲的に書くことができるよう、映像資料を活用して問題意識を持たせる。これは、映像資料を活用することによって、環境問題についての理解や興味・関心の薄い児童でも、問題の概要を分かりやすく把握することができると考えたからである。教材文との関わりから、取り上げる題材は「地球温暖化」とした。

映像資料を見た後、学校図書館から集めた環境問題に関する本を紹介し、環境問題について調べ、呼び掛ける文章を書く意欲を更に高めさせたい。地球温暖化と自然エネルギー、省エネルギーなど、エネルギー問題を題材にしたものや、交通・運輸、資源の利用（リサイクル）、公害等様々な題材の図書を準備し、児童が自らの興味・関心に沿って選ぶことができるようにする。

第二次では、まず、教科書の資料と例文から、資料の持つ効果や資料が文章の中でどのように活用されているか、またどのような構成で書かれているかを読み取らせていく。ここでは文章構成の理解を深めるため、文章構成図を活用する。「序論－本論－結論」の構成や、本論で「問題－原因－解決策」と論を展開し、筋道立った構成になっていることを端的に示し、児童が一目で文章の構成を捉えることができるようにする。

教科書の例文では、日本で排出される温室効果ガスの内訳で95%が二酸化炭素であるとし、二酸化炭素の排出量を少なくすることが温室効果ガスを増やさないために最も有効なことだと述べている。一方、具体的な取組についてはゴミを少なくすることだけが述べられており、資料も用いられていない。そこで、児童に教科書の例文に続けて、温室効果ガスを増やさないための具体的な取組を、資料を活用して呼び掛ける文章を書くという課題を与える。

次に、教科書の例文での学びを生かして、文章を書くための資料を関連図書から選択していく。資料を効果的に活用するためには、自分の意見に合わせて資料を選択し、そこから必要な情報を取り出すことが重要になる。どのような資料を選択し、どのような情報を取り出すかは個々の考えによって変わってくるが、教科書教材を使って資料の選択の仕方や情報の取り出し方を考えさせたい。そこでまず教科書にある資料から、情報を取り出し、その情報から考えられることを書く活動を行う。ここでは、文章を書く際に資料から得た事実なのか自分の考えなのかを明確に示すことができるように思考に関わる語句を活用させる。具体的には、資料を引用するときを使う「～そうです」「～からは、～ということが分かります」という語句と、資料を基に自分の考えを述べるときに使う「このことから、～と考えました」という語句の効果を中心に指導し、それぞれを区別して書くことができるようにしていきたい。その際、I期の実践で用いた思考に関わる語句のワークシートを用いて、思考に関わる語句の意味理解を図っていく。

次に、児童自身が考える温室効果ガスを増やさないための具体的な取組について必要な資料を集めて、資料を適切に選んだり、必要な情報を取り出したりして文章構成図を基にした構成メモを作成していく。

第三次では、構成メモと選択した資料を活用して呼び掛ける文章を原稿用紙に書いていく。推敲においては、友達と相談し意見交換をすることで、より説得力のある文章になるようにしたい。書いた文章は、資料を効果的に活用できているかに着目して互いに読み合い、感想の交流を行うことで単元の学習の振り返りとする。

6 自己の研修課題との関連

(1) 研修テーマ

児童が論理的思考を展開し、説得力を持った文章を書けるようになる授業を目指して

－ 国語科における、文章構成図の活用と思考に関わる語句の指導の工夫を通して －

(2) 研修課題との関連

- ① 児童が筋道立った論を展開できるための文章構成図の活用
 - ・ 文章構成図は説明文の基本的な文章構成である「序論」「本論」「結論」の三部構成とし、「本論」の部分には説明に必要な資料と、その見出しを図示することで、文章構成を視覚的に捉えることができるようにする。
- ② 児童の考えをはっきりとさせるための思考に関わる語句の指導の工夫
 - ・ 資料を引用するときを使う「～そうです」「～からは、～ということが分かります」という語句と、資料を基に自分の考えを述べるときを使う「このことから、～と考えました」という語句を重点指導語句に位置付け、文章を書く際に活用できるようにする。

7 単元の指導と評価の計画（9時間扱い 本時6／9）

次	時	主な学習活動	指導上の留意点	評価規準	
1	1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 環境問題に関する映像資料（NHK for School「地球温暖化」）を見て、環境問題について知り、問題の解決に有効な取組を呼び掛ける文章を書くという学習課題を理解する。 ○ 学習計画を立て、学習の見通しを持つ。 ○ 環境問題に関する関連図書を読み、どのような資料があるのかを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ICT機器を活用し、映像資料を提示することで、児童が環境問題について興味・関心を持つことができるようにする。 ○ 児童が興味・関心に沿って本を選ぶことができるよう、冊数を確保する。 	<p>【関】複数の資料から情報を読み取り、効果的な資料を選択して呼び掛けの文章を書くことに意欲的に取り組もうとしている。（観察・発言・ノート）</p>	
2	2	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書P90, 91の資料を読み取り、それぞれの資料の種類ごとの効果や情報の読み取り方を考える。 	<p>○ 環境問題に関する関連図書の読書と、資料の収集</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ それぞれの題やキャプションに着目させ、書かれている内容を大まかに捉えさせる。そして、資料の種類（写真、図、グラフ）に応じた使い方があることを考えさせる。 	<p>【読】資料の種類によって文章中での効果や、活用の意図に違いがあることを理解している。（観察・発言・ノート）</p>
	3	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書の例文の段落構成を文章構成図にまとめる。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科書の例文がどのような文章構成になっているかを理解できるよう文章構成図を活用する。（双括型） ○ 本論部分が、どのように展開されているかを読み取らせ筋道立った文章構成の理解を深めさせる。（①問題点－②原因－③解決策） 	<p>【書】自分の考えを明確に表現するため、資料を活用した文章の構成を考えている。（観察・発言・ノート）</p>
	4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を活用して文章を書くときに使う語句を知り、教科書の資料から情報を取り出したり、資料を基に自分の考えを書いたりする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を活用する際は「資料の説明」「資料から分かる事実」「理由付け」の順序で文章を書くことと効果的であることを理解させる。 	<p>【書】資料を活用した文章の書き方を理解している。（観察・発言・ノート）</p>
	5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 温室効果ガスを増やさない具体的な取組を呼び掛けるために、関連図書から資料を選び、事実を取り出したり、資料を基に自分の考えを書いたりする。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 資料を選んだ理由を、資料から取り出した情報を基に書かせることで、自分の考えに説得力を持たせることができるようにする。 	<p>【書】資料を選び、必要な情報を取り出したり、自分の考えを書いたりしている。（観察・発言・ワークシート）</p>
	6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 文章構成図に選んだ資料や取り出した情報を書き込み、自分の考えを文章で伝えるための構成メモを作成する。 		<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の考えを伝えるために、第5時で選んだ資料や取り出した情報を基に構成メモを作成させる。 ○ 資料を引用するときを使う語句や、自分の考えを述べる時に使う語句を用いて、資料から得た事実と自分の考えとを区別して書くことができるようにする。 	<p>【書】資料を活用した効果的な文章の構成を考えることができる。（観察・発言・ワークシート）</p>
3	7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 構成メモを基に下書きを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 思考に関わる語句を活用し、資料から分かる事実と自分の考えとを区別して書くことができるようにする。 	<p>【書】資料から分かる事実と自分の考えとを区別し、文章を書くことができる。（観察・ワークシート）</p>	
	8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 意見文を推敲し、清書する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達同士で資料の活用法や説得力の有無について意見を交換させる。 	<p>【書】友達同士で推敲して清書している。（観察・発言）</p>	
	9	<ul style="list-style-type: none"> ○ 書いた文章を読み合って感想を伝え合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 書いた文章を読み合い、学習の振り返りをする中で、資料を活用した説得力のある文章の書き方を理解できるようにする。 	<p>【書】資料を効果的に活用しているかを確認し、友達と感想や助言を伝え合っている。（観察・ノート）</p>	

8 本時の指導

(1) 本時の目標

【書くこと】

- 適切な資料の選択の仕方と情報の取り出し方を理解し、資料を活用した効果的な文章の構成を考えることができる。

(2) 本時の指導に当たって

導入では、第5時で児童が選んだ資料を紹介し、資料からどのような情報を読み取ったのか、どのような考えを持ったのかを確認する。そして、資料を活用した文章を書くための構成メモを作成することを知らせる。

展開では、まず全体で構成メモの書き方を確認する。この際、資料から読み取った情報と自分の考えとを分けて文章を書くために、思考に関わる語句を当てはめさせながら、文頭と文末の表現を工夫することを意識させる。第5時で選んだ資料は、本論の部分で活用させ、「問題点」「原因」「解決策」と筋道立った文章構成になるよう作成させ、本論とのつながりを意識して結論の部分の構成メモを考えさせる。

また、この構成メモには児童が選んだ資料を貼り付けることができるよう、第5時で児童が選んだ資料をあらかじめスキャンして定期券サイズに印刷しておく。

児童は本時まで並行読書として様々な種類の資料に目を通してきているので、書いた構成メモを読み合う場面では、より適切な資料からの情報の取り出し方や考えを提案することも期待する。

終末では、本時の学習の振り返りを行った後、原稿用紙に下書きを書く活動を設定する。児童が、本時で作成した構成メモを実際に使って文章を書く活動を行うことで、メモを基に文章を書く良さを実感できるようにしたいと考えている。また、構成メモを作成したことで、自分が提案する具体的な取組を書く上での意欲につながることも予想される。書く意欲の高まりを次時につなげるためにも、短い時間ではあるが下書きに取り組ませたい。

(3) 指導過程

段階	学習活動	学習形態	指導上の留意点	評価の観点 (評価方法)
導入 7分	資料を効果的に活用し、筋道立った説得力のある文章を書くための構成メモを考えよう。			
	1 第5時で児童が選んだ資料を提示し、資料からどのような情報を読み取ったか、どのような考えを持ったのかを確認する。そして、それらを構成メモに書いていくという本時の学習目標を確かめる。(7分)	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 児童が選んだ資料を事前にスキャンしておき、ICT機器を用いて投影し提示する。 選んだ資料を活用してどのように文章を書いていくかに興味を持つことができるようにする。 	
展開 28分	2 構成メモの書き方を知る。(8分) 【質問】 「この資料から取り出した情報と、考えたことを構成メモに書くときに、考えをはっきりさせる言葉はどれを使うとよいでしょう。」 【予想される児童の反応】 <ul style="list-style-type: none"> Aは資料から取り出した情報だから「～ということが分かります」や「～だそうです」を使います。 Bは自分の考えが書いてあるから、「このことから～と考えました」を使います。 【質問】 「結論の段落ではCとDのどちらの文章にすればよいでしょう。」 【予想される児童の反応】 <ul style="list-style-type: none"> Cは本論で述べていることとは違う 	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 構成メモを書く際には、ワークシートを活用する。単元の第3時で使った文章構成図と同じものを使うことで、構成メモと清書とのつながりを捉えやすくする。 第4時で使用した教科書の資料と「取り出した情報」「考えたこと」を提示し、それらを使ってどのように構成メモを作っていくか全体で確認する。 構成メモには、取り出した情報と自分の考えとをはっきりと分けて書くことができるよう、文頭や文末の表現を工夫させる。 筋道立った構成となるよう、結論の段落は、本論を踏まえた文章となるよう構成メモを作成させる。 	

	<p>ことを述べている。</p> <ul style="list-style-type: none"> Dは本論で述べていることを基にして、再度呼びかけを行っている。 <p>3 構成メモを書く。(15分)</p> <p>【発問】 「第5段落から結論までの構成メモを書きましょう。」</p> <p>4 書いた構成メモを読み合う。(5分)</p>	個人	<ul style="list-style-type: none"> 構成メモを書くことが難しい児童には、板書に示している構成メモを参考にさせたり教師が言葉を補ったりしながら書くことができるようにする。 	【書】資料を活用した効果的な文章の構成を考えることができる。(観察・発言・ワークシート)
		グループ	<ul style="list-style-type: none"> 友達の構成メモを読む視点として次の2点を示す。 ① 資料から取り出した情報と、自分の考えとを区別して書いているか。 ② 本論と結論のつながりがあるか。 <ul style="list-style-type: none"> 友達同士で読み合う際は4人グループでの活動とする。視点に沿って読み、考えたことは付箋紙に書いて構成メモに貼り付けさせる。 	
まとめ	5 本時のまとめをする。(5分)	一斉	<ul style="list-style-type: none"> 児童の発言を生かして、本時のまとめをする。 	
	<ul style="list-style-type: none"> 資料を効果的に活用するため、事実と考えとを区別して書く。 本論と結論のつながりを大切にする。 			
10分	6 原稿用紙に下書きを書く。(5分)	個人	<ul style="list-style-type: none"> 構成メモを基に、第5段落からの文章を原稿用紙に書かせる。資料を見ることを促す言葉や、資料の説明などを補いながら文章を書くよう指示する。 作った構成メモを基に文章を書かせることで、メモを基に書くことの良さを実感できるようにする。 	

(4) 本時の評価

評価の観点	評価規準	十分満足できる (A)	努力を要する児童 (C) への手立て
書く能力	資料を活用した効果的な文章の構成を考えることができる。	資料から取り出した情報と自分の考えとを区別したり、本論と結論とのつながりを考えたりしながら構成メモを作成している。	板書に示した構成メモや、教師のアドバイスを基にして構成メモを作成できるようにする。

(5) 準備物

- ワークシート (構成メモ), 第5時で集めた資料, 構成メモ (板書用), パソコン, プロジェクター, スクリーン

(6) 板書計画

まとめ

- ・そうです。
- ・と考えました。
- ・このことから
- ・このグラフからは
- ・ということが分かります。
- ・ということが分かります。

結論

D このように、電気を節約して使っていくことを心がけていきましょう。

本論

B このことから、こまめに電気を消して電気のむだ使いをなくすことで二酸化炭素の排出を抑えることができますと考えました。

A このグラフからは、家庭からの二酸化炭素排出量の約半分が電気だということが分かります。

【資料4】
家庭からの二酸化炭素排出量の燃料種類別内訳

構成メモ

資料を効果的に活用し、筋道立った説得力のある文章を書くための構成メモを考えよう。

十月二十四日 (水)

めあて

〈考えをはつきりとさせる言葉〉

・このことから

・このグラフからは

・ということが分かります。

・ということが分かります。

〈結論〉

序論・本論とのつながりが大切

資料を効果的に活用するため、事実と考えとを区別して書く。

序論・本論・結論のつながりを大切にします。

<p>【考えの種類】</p>	<p>【例文】</p> <p>私は、納豆が嫌いです。なぜかというと、ねばねばした食感が苦手だからです。</p>	<p>【どんな場面で使うか・どんな効果があるか】</p> <ul style="list-style-type: none"> 理由を述べる時に使う。 考えのわけをはっきりとさせる効果がある。 	<p>【考えをはっきりとさせる言葉】</p> <p>なぜかというと、くから</p>
<ul style="list-style-type: none"> 意見（主張） 比較 仲間分け 分析 理由づけ 推論 解釈 具体化(一般化) 反論 付け加え 順序 その他 <p>()</p>			

<p>【考えの種類】</p>	<p>【例文】</p>	<p>【どんな場面で使うか・どんな効果があるか】</p>	<p>【考えをはっきりとさせる言葉】</p>
<ul style="list-style-type: none"> 意見（主張） 比較 仲間分け 分析 理由づけ 推論 解釈 具体化(一般化) 反論 付け加え 順序 その他 <p>()</p>			

結論	本論				序論
まとめの意見	解決策 2	解決策 1	原因	問題点	意見
⑥	⑤	④	③	②	①
	<p>〈資料の説明〉 〈資料から取り出した情報〉 〈考えたこと〉</p>	<p>〈資料の説明〉 〈資料から取り出した情報〉 〈考えたこと〉</p>	<p>〈資料の説明〉 〈資料から取り出した情報〉 〈考えたこと〉</p>	<p>〈資料の説明〉 〈資料から取り出した情報〉 〈考えたこと〉</p>	
/	資料④	資料③	資料②	資料①	/